

## 私のカルテ

No 327

## 小児の異物誤飲について

津島市民病院  
小児科医師  
成岡 紗帆

## 『誤飲』とは？

食べ物以外のものを誤って飲み込むことを『誤飲』といいます。こどもの誤飲は乳児に多く、3歳未満が90%を占めます。洗剤などの家庭用品や医薬品、おもちゃや硬貨など、身の回りにある様々なものが原因となります。

今回は、万が一誤飲してしまったときにどのような対処をすればよいかをお話しします。

## 少量であれば、あまり心配がないもの

紙くろりん・化粧品・せっけん・シャンプー・絵の具・シャボン玉・墨汁・線香・シリカゲル(乾燥剤)・粘土などは少量であれば特に問題はありませんが、まずはお家で様子を見ましょう。顔が悪い、呼吸状態が悪い、ぐったりするなどの症状があれば病院を受診してください。

もし、喉や気管・食道に詰まっている場合は、激しくせき込みます。しかし、その後顔色が悪い、呼吸状態が悪いなどの症状がなければ、大抵のものは胃・

腸を通過して数日後に便と一緒に排泄されます。数日間は大腸の中に混ざって出てきていないか確認するといいでしょう。

## 病院を受診したほうがいいもの

①ボタン電池…胃の中にあると、放電によって粘膜を傷つけ消化管に穴をあける危険性が高いので、急いで取り出す必要があります。

②たばこ…2cm以上飲み込んだ場合は、ニコチン中毒の症状が出る可能性があります。特に、たばこが浸かった水を飲んだ場合はすでにニコチンが溶け出しているため、あつじつまに症状が出てくる可能性があります。急いで病院を受診してください。

③危険な液体…石油・ガソリン・除光液などの揮発性のものや、漂白剤・カビ取り剤・消石灰乾燥剤などの強酸・強アルカリのものは、中毒症状を引き起こす危険性があります。これらのものは、吐かせると肺や食道を傷つける可能性があるため、そのまま受診

するようになっています。

④鋭利な物や大きい物…先端のとがったものや長径6cm以上のものは、消化管の粘膜を傷つける可能性があります。消化管に穴があいたり、つまったりする危険性が高く、症状の有無にかかわらず急いで取り出す必要があります。

⑤磁石…小さく丸い磁石でも複数同時に誤飲した場合には、互いの磁力でひきつらあつて消化管を傷つけることがあるため取り出す必要があります。⑥医薬品…種類や飲んだ量によって嘔吐、意識障害、ふらつきなどの様々な症状が出現します。処置が必要となることもありますので、病院を受診してください。その際、薬の入っていたシートなど薬の名称がわかるものを持参するといいでしょう。

## 最後に

平成25年の厚生労働省の統計によると4歳未満の子どもの不慮の事故による

死亡の中で窒息は30%以上を占め、交通事故や溺死をしのいで最も多くなっています。

生後6カ月から3歳頃の小児は、身の回りの興味があるものをすぐに口に持つていく特徴をもっています。誤飲を防ぐためには、「高さ1m以下の場所に、直径32mm以下のものを置かない」ことが大切です。

処置がわからない場合には日本中毒情報センターのホームページ

(☎) <http://www.j-poison-ic.or.jp/homepage.nsf> をご覧になるか、最寄りの病院に問い合わせてください。

